

# 鹿身協 STK 福祉新聞

No.51



## ごあいさつ

社会福祉法人 鹿児島市身体障害者福祉協会  
理事長 財 部 工

地球規模で蔓延しております「新型コロナウイルス」

一時は収まるやに見えたことから非常事態宣言も解除されましたが、7月に入り感染者が急増しています。特に、鹿児島が凄いいことになりました。

天文館のど真ん中で発生したクラスターは、県下全域に飛び火し私たちの暮らしに与える影響も大きく不安と動揺を隠せません。

そんな中で新年度をスタートした身障協ですが、皆様方の絶大なるご支援ご鞭撻をいただきまして、お陰様でコロナに負けない良いスタートが出来たと考えております。しかしながら、目に見えないウイルスとの戦いは、やはり危惧されるところであります。

オリンピックや国体も延期となり、県や市の予定されていた多くの行事が中止になる中で、身障協の行事もやむなく中止すべきところだとは思いますが、今年度も、たくさんの行事を計画しております。会員の皆さんとの交流を深める大切な行事ですから、全て中止するのではなく、規模を縮小して、あるいは従来の形を変えてでも何とか実施できないものかと運営審議会の中でも話し合っておりますので別途ご案内させていただきます。

今年も残り半分、身障協は「やる気！元気！心意気！」でどんどん進化しております。

皆さんの忌憚のないご意見もどんどんお寄せください。皆さんの力も貸してください。

しぶとく生きながらえてきた身障協ですが皆さんと一緒に頑張って身障協を守り育てていきましょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

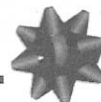
目 次

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

理事長あいさつ	1
作品展&一日レクリエーション	2
体育大会	3
障害を越えて	4~5
運営方針及び事業報告	6

資金収支計算書	7
財産目録	8
相談員名簿	9
友愛パス	10
会員募集・コロナ対策	11
事務局だより	12

第13回 鹿児島市身体障害者作品展のお知らせ  
第8回 福祉大会 功労者表彰式



身体障害者の技能と経験を生かして制作した作品を社会に公開展示し販売することで、身体障害者の社会参加の意欲を高めようとするものです。

日 時：令和2年 10月 18日(日)  
9:45～15:00

場 所：ゆうあい館 体育館

障害者の方の手作りの作品を展示販売いたします。  
手芸品・絵画・木工品なんでも構いません。  
皆様からの出店をお待ちしています。



出店希望の方は 8月 29日(土)までに事務局へお申込み下さい。

《事務局連絡先》 253-9771

★楽しいアトラクションや抽選会も準備しています。  
皆様お誘い合わせの上ご来場ください。

※ なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、三密対策にも十分配慮の上、行事を実施したいと考えております。

時節柄、新型コロナウイルス感染の状況によっては、時間短縮や行事内容の変更または急遽開催を取りやめる場合も考えられますので、その際にご容赦願います。



## 一日レクリエーション



大変申し訳ございませんが、新型コロナウイルス感染拡大を受けて中止を含めて現在検討しておりますので、詳細は後日お知らせいたします。

なお、現時点での計画概要は次のとおりです。

- ・ 行先は霧島方面としますが、変更することがあります。
- ・ 観光バスの旅行となりますが、昼食時の密を避けるため1日当たり60人、バス(2台)で3日間に分けて11月中に実施します。



# 鹿児島市身体障害者体育大会 参加者募集

開催日時 令和2年11月22日(日)

開会式 9時30分

閉会式 13時00分

会場 ゆうあい館 体育館

申込締切 8月31日(月)まで

問い合わせ先 099-253-9771



### ◆競技種目

- ・フライングディスク ・ボウリング
- ・ぼっちゃ ・宝さがし ・色別リレー

※ なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、三密対策にも十分配慮の上、行事を縮小し、実施したいと考えておりますが、感染拡大の状況によっては、急遽、開催を取りやめる場合も考えられますので、その際にご容赦願います。



## 大塚ウェルネスベンディング(株)

〒890-0064 鹿児島市鴨池新町6-6  
鴨池南国ビル11階  
TEL 090-7312-4737  
FAX 03-3294-8099



Churei  
technology to evolve

進化した技術で  
「特別ではない、あなたらしい生活」をサポートします。

安心してご使用して頂けるよう、製作からアフターフォローまで、専門のスタッフが責任をもって  
お請け致します。



## (株)中礼義肢製作所

義肢・装具・座位保持・整形靴製造販売 介護保健福祉用具貸与・販売・住宅改修

福祉用具・介護用品販売、メンテナンス

〈本社〉〒892-0846 鹿児島市加治屋町11番3号 TEL099(225)0888  
〈始良工場〉〒899-5652 鹿児島県始良市平松3738-1 TEL0995(65)7761  
〈大島出張所〉〒894-0006 奄美市名瀬小浜町34-3小浜ヒルズ204号 TEL0997(53)4050

## シリーズ『障害を越えて』

⑮ ゆうあいの郷 上玉利 資性

障害者の仲間が集まれば、百人百様、それぞれが宿命的な障害に立ち向い人生をたくましく生きています。障害を乗り越えた方や、いまだ奮闘中の友もその想いを文章に託して伝えてみませんか。それは私達障害者にとって、おおいなる人生のエールになるにちがいありません。

### たけとんぼ



二二六事件の起きた年(昭和11年)に生を受けた私も、今年無事に83歳を迎える事が出来ました。

お陰様で毎日タイムカードを打って”ゆうあいの郷”でみなさんと楽しく仕事をしながら趣味にも精出しております。

私は、5歳の時に満州に渡り、齊齊哈爾(ちちはる)にある幼稚園に入園しました。住宅は道路に面した門があり、コの字型に家が並んで真ん中は運動場のような広場になっていました。近所には、日本軍戦死者の慰霊碑「忠霊塔」がありよく遊んでいました。

1年生の時、四平街(しへいがい)に移住し小学校に入学しましたが、兵隊さんが学校に駐留して使えなかったりして近所の公園で授業を受けることも度々でした。

3年生の時、殆ど学校へは行かず、姉の教科書や夏目漱石全集を何回も何回も繰り返し読んでいました。満州は広大な高粱(コウリャン)畑やスイカ畑が見渡す限りに続いていて他人の畑であってもそこで食べるスイカは食べ放題でした。

小学3年生の時に太平洋戦争の終戦を迎え、それからが敗戦国の悲哀を味わう悲惨な生活が始まりました。

8月15日を境に日本人は一夜にして敗戦国の捕虜の立場に変わったのです。父は農村へ食料を求めて買い出しに行き、子供は親の手伝いをして荷車を押したり、色々な品物を道路端で売ったりして日銭を稼いでいました。

終戦後の満州の治安は最悪で、夜中にドンパチと戦が始まり朝になったら八郎軍(毛沢東率いる革命軍)が占領駐留し、日本人の家庭も兵士達の宿舍代わりに占領され、食料や衣類を強奪された事も度々でした。2,3日したら又ドンパチが始まり、朝、目が覚めたら蒋介石軍が占領進駐して姉は看護婦として野戦病院に強制連行されました。その後に進駐して来たソ連軍も金品を強奪したりして苦痛の日々が続きました。

そんな中で唯一の思い出は、両腕にたくさんの腕時計をした兵士のゼンマイ切れの時計をネジを巻いて動くようにしたとき、どれでも一つ持って行けと時計を貰ったことです。女性を襲う事件も頻発しており、女性は皆、頭を丸刈りにして男の格好をしていました。

学校では軍事訓練と称してヒットラーやルーズベルトの藁人形で竹槍の訓練を来る日も来る日も毎日やらされ、10キロ行軍も日課でした。

4年生の二学期に指宿に引き揚げて来ました。当時の日本の生活も惨めなもので、学校への行き帰りは裸足です。夏は、太陽で焼けた小石の上を飛び跳ねたり、畑の畦道の草の上を歩いたり、冬は、霜の降りた道を震えながらの通学でした。

学校で年に数回運動靴の配給がありました。クラスで5足位です。それは抽選で支給されるためサイズが合わなくても我慢して靴を履いて登校していましたが、卒業するまで私は1度も貰えませんでした。履物と言えば盆・正月に下駄を買って貰うのが習慣でした。

学校から帰ったら山に焚き木取り、休みの日は収穫の終わった畑を歩き回って稲穂や芋、野菜クズなどを拾って家族の食事の足しにしました。遊び道具も全て手作りです。たけとんぼ、竹馬、コマ、メジロの鳥籠も自分で作っていました。ボールはビー玉を芯にして糸を巻いてその上から布切れを巻き糸で縫って作り、バットは丸太をナイフで削って作りました。手作りのバットを持って早朝の河原で素振りをするのが日課でした。

学校の講堂で有料の映画会もありましたが、入場料10円を親に言えなくて講堂の窓の外から音だけ楽しんでいました。

弁当は、新聞紙に包んだ2個のさつま芋です。街の商売人の子供は米のご飯に卵焼きのおかずを持って来ていたのでよく芋と交換して食べたものでした。

6年生の時に学校給食が始まりました。かの有名な進駐軍から支給された、脱脂粉乳です。初めは拙くて喉を通らない代物でしたが、芋が主食の当時の事、其の内に慣れて来て、子供の栄養源として貴重な贈り物だったと思います。

中学生になると夏休みは海岸の護岸工事の土方仕事です。スコップで穴を掘ったりセメント袋を肩に担いで砂浜を運んだり、友達の農家でキャベツの出荷をしたりです。

時間があると竹笹やススキの穂で箒を作って小遣いを稼いでいました。

マムシの生け捕りもしました。最初は怖くて、マムシを棒で叩きのめして街の薬局に持って行ったのですが、傷があるマムシは一匹50円・傷の無いマムシは一匹100円で引き取って貰えるということでした。

小遣いは、親から貰うのではなく、自分で汗をかいて自分で稼いでいました。ですから「1円たりとも無駄にしない。」は今でも私の信条となっております。

その後、平成18年6月に大腸がんを手術、平成25年5月には人工膀胱で入院手術、身体障害者手帳は平成25年9月に交付を受けております。

昭和も遠くなり、戦時中の記憶も遠くなる中で、2度と繰り返してはならない史実として頭の隅に残していただけたらと思います。



### 原稿募集のお知らせ

書くのが苦手な方はインタビューに伺います。  
自薦・他薦を問いません。たくさんの原稿をお待ち致しております。  
(400字詰原稿用紙2~4枚)

## 令和元年度 基本・運営方針及び事業報告

### 1 基本方針

我が国の高齢化社会の進展とともに、私たちの身近な福祉環境の中でも高齢化が進み当協会に求められる役割と責務は複雑・多様化し、ますます重要になっております。

当協会は、鹿児島市に居住する身体障害者手帳保持者の社会参加、自立支援をサポートすべく会員総意のもとに支え合い、人と人とのつながり、絆を大切にして会員の心のよりどころとなるように、きめ細かな施策を積極的に推進していかなければなりません。そのために、理事会、評議員会の機能を十分に生かしながら、会員や福祉関係団体等と協力し、市との連携を緊密に図りながら社会福祉法人の高い公共性を目指して取り組んでおります。

また、当協会の運営する就労継続支援B型事業所「ゆうあいの郷」につきましては、当協会の財政再建の根幹をなすもので事業所運営の健全化を重点課題として利用者確保と手厚い支援に全力で取り組みました。

### 2 運営方針

法人本部は、経営基盤の確立に努め、各事業の二ーズにあったきめ細かな社会福祉事業を推進しました。

- (1) 会員の自立や社会参加の促進、融和や健康増進を図り、社会福祉事業の推進に積極的に取り組みました。
- (2) 就労継続支援B型事業所は、今後とも利用者が働き、生産する喜びを得る中で健康で自立した日常生活、社会生活が営まれるよう、障害の程度に応じた生活・職業の支援を行い、健全運営に努めました。

### 3 法人目標

法人は、「経営の原則」である社会福祉事業の主たる担い手として相応しい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、地域福祉の推進に努めました。

法人の職員は、会員に幅広く対応できる豊かな人間性を持ち、地域福祉サービスの推進のため一人一人が「相互扶助の精神」をもって福祉職員としての資質の向上に努めました。

- (1) 「相互扶助の精神」で思いやりのある温かい職場づくりに努めました。
- (2) 福祉事業に携われる誇りと感謝の気持ちを持って誠心誠意努めました。
- (3) 笑顔とやさしさで愛情をもって支援しました。

### 4 本年度の事業報告

#### (1) 各支部組織の活動促進

事業部・自動車部・各支部の総会及び交流会等への活動協力

#### (2) 市受託事業・補助事業も実施

- ・ 一日レクリエーション(南薩方面：149人参加)
- ・ 障害者作品展(194人参加)
- ・ 鹿児島市身体障害者体育大会(62人参加)

#### (3) 姉妹協会「宮崎身体障害者福祉協会」との親善交流スポーツ大会(97人参加、鹿児島で実施)

#### (4) 障害者福祉推進及び研修事業

- ・ 日本身体障害者福祉大会(秋田)への参加
- ・ 九州身体障害者福祉大会(佐賀)への参加

#### (5) 社会参加促進事業

ア 県及び市障害者各種行事・イベントへの参加

(県障害者スポーツ大会 市身体障害者体育大会)

イ 市社会福祉協議会及びゆうあい館交流事業への参加

(市わくわく福祉フェア ゆうあい館交流フェスタへの参加(模擬店、バザー出店))

#### (6) 各部等の競技・行事への参加

(自動車部の運転技能競技大会 「花咲会」の障害者施設慰問)

#### (7) 障害者福祉団体との連携

#### (8) 企業賛助との連携

#### (9) 広報活動の推進

福祉新聞の発行(年3回) 市広報誌「市民のひろば」への掲載

#### (10) 障害者相談の対応